（様式－３）

送 電 線 工 事 災 害 報 告 書 （再発防止対策書）

関東支部

発生日時	令和４年８月31日（水曜日）　18時30分頃						天　候		晴れ	
災害の程度	死亡－名	負傷１名	職種：元請社員				年令63歳		経験年数41年	
工事の種類	調査測量	伐　採	運　搬	仮　設	基　礎	組　立	足　場	架　線	撤　去	その他
災害の種類	墜落・転落	転倒	物の飛来・落下	崩壊・倒壊	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	感電	その他		
原　　因	作業準備の不良	作業方法の不良	工具防具の不良	電気工作物の不良	作業者の過失	共同作業者の過失	その他			
設　　備	電圧　－kV	－回線	電線　－　㎟　単導体			地線　－　㎟　条				

件名	伐採作業管理終了後他者と別れて下山中，道に迷い沢に滑落し負傷
災害の状況	被災者は，径間伐採作業の施工管理を終え，登山したルートとは異なるルートを探すために単独で下山していたところ，道に迷い日没とともに自力下山が困難となった。その後沢に滑落し負傷した。 道に迷った時点から連絡を取り合っていた所属会社は，自力下山が困難との連絡を受け（以降所属会社との連絡は不通），消防に救助を要請。消防は被災者からの連絡により，被災位置と負傷している旨を確認し，山岳救助隊の出動を要請。山岳救助隊は深夜に被災者を発見し，翌朝救急車に収容。 ［被災程度］左肋骨多発骨折/左血気胸，骨盤骨折，第12胸椎破裂骨折 ［装　　備］作業服上下，安全靴，保護帽
原因及び対策	1. 災害発生の主原因 (1) 被災者（管理社員）は，伐採作業員の登山疲労を軽減するための新たな登山ルート調査を，計画外で行った。 (2) 被災者は，道に迷い，日没を迎えること等の焦りから，元の道に戻ること等の冷静な判断が出来なかった。また，照明具を携行しておらず，危険個所に入った。 (3) 事業者（元請会社）は，労働者（管理社員）に対し，山岳地の送電線工事現場で共通する遭難，滑落災害に関し，危険感受性※を高める教育が不足していた。 ※危険感受性とは，何が危険か，どうなると危険な状態になるのかを直観的に把握し，危害の程度・発生確率を敏感に感じ取る能力をいう。（厚労省） 2. 再発防止対策 (1) 事業者は労働者（または，元請会社は作業員）に対して，高齢化をも踏まえ，山岳地の送電線工事現場で共通する滑落災害に関し，事故例検討会等の手法を用い，危険感受性を高める教育を実施する。 (2) 事業者は労働者（または，元請会社は作業員）に計画外行動をとらせない。労働者は計画外行動をとらない。 (3) 事業者は労働者（または，元請会社は作業員）に対して，当該現場における遭難や滑落災害のリスクに応じ，必要装備を携行させる。 (4) 労働者は，滑落の恐れのある個所には立ち入らない。立ち入らざるを得ない場合には，その状況に応じ，遅足，四つん這い，ザイル支持，迂回等の安全対策を自らで講ずる。

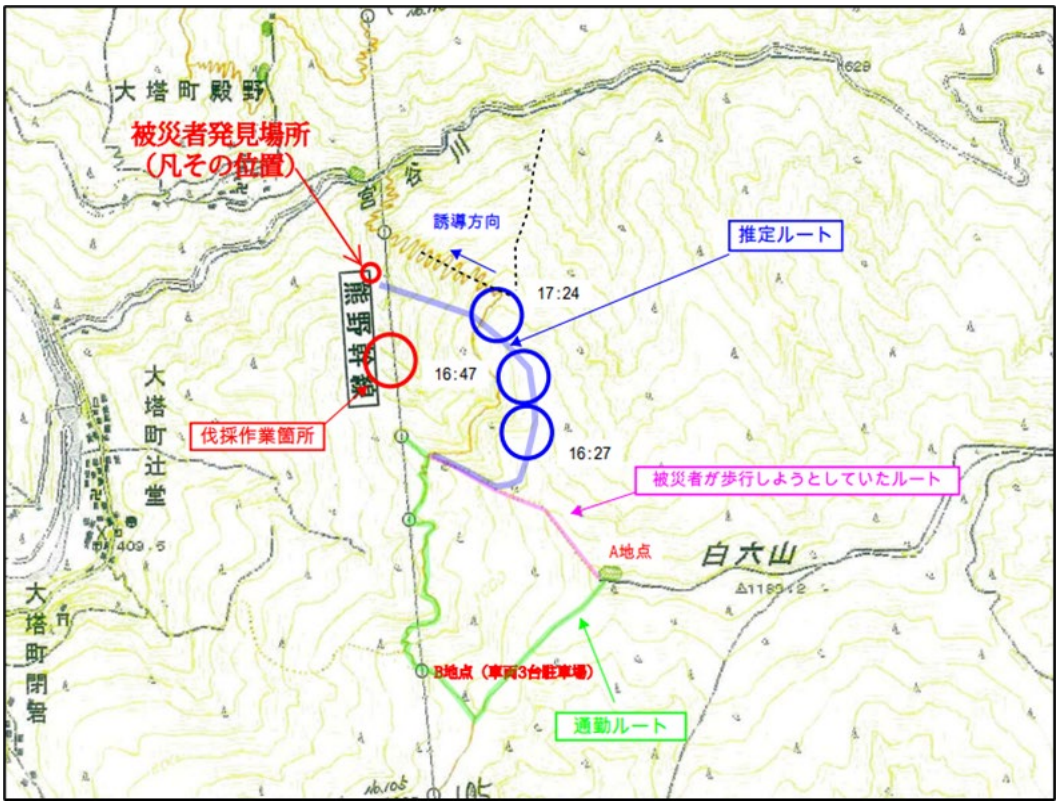
（注）1.「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし，「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に○印を付ける。

2. 災害状況の説明と共に，なるべく図面を添付すること（様式－2）。
特に感電の場合は支持物，電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

災　害　概　要　図

［災害発生位置図］



［状況写真］

被災者救出位置から滑落箇所を推定

被災者が救助された場所